網走水試ミニレター

No.20　2013.11.11

11月に入り、オホーツクの太宗漁業である地まきホタテガイ漁業と秋さけ定置網漁業は終盤に入っています。今年の地まきホタテガイは貝柱の歩留が良く、サイズも大きかったことから各漁協とも当初の年間計画を上回る生産が見込まれています。また、秋さけについても漁期前の来遊予測を上回る水揚げとなっています。

▼さて、先月下旬に網走市で「水産機械研究会 講演会 in 網走」が開催されました。この研究会はH22年に道総研工業試験場と各地域の工業技術センターが幹事となって設立され、北海道の水産機械分野に係わる課題調査や新技術の発掘･応用、交流会･展示会の開催などを通じて、道内水産業の生産性向上と機械産業の活性化を図ることを目的に活動しています。

▼今回の講演会では、第Ⅰ部の『地域の課題に取り組む研究開発』で、「道南地域における水産機械開発」や工業試験場で取り組んでいる「ホッケ魚臭集中部位除去装置の開発」などが紹介されました。また、『明日を開くホタテの技術最前線』と題した第Ⅱ部では、「ホタテボイル加工における新しいビジネスモデルの構築」や網走水試で研究開発を進めている「漁場海底画像を利用したホタテガイ高精度資源量推定技術」の他、(株)ニッコーから「大幅な省人化を実現するホタテガイ自動生剥き機」について､10年程前に市場投入された装置からの改良点やこの機械で剥かれた貝柱の吸水率、色合い、ドリップ量などの品質評価結果が紹介されました。会場には、水産機械･資材関係の企業や根室、宗谷管内も含めた5つの漁協、道水産林務部、オホーツク総合振興局水産課などから50名を超える出席者があり、水産機械に対する関心の高さが窺えました。

▼オホーツク管内の水産業は、漁獲量・金額（29万トン・640億円、いずれもH23年）ともに全道の20%以上を占め、正に地域を支える重要な産業です。また、オホーツク海域（宗谷管内を含む）の漁業就業者一人当たりの生産（H22年）は、漁獲量で全道平均の約2倍、金額でも約1.7倍であり、本道の各海域の中で群を抜く高い生産性を誇っています。

▼しかし、将来の就業人口推計によると、今から17年後のH42年には、オホーツク地域においても「漁業」と「製造業」の就業人口は、それぞれ現在の約75%（対H17年比）にまで減少するとされています。従って、オホーツクの水産業が今後とも現在の生産を維持するには、生産性を大幅に向上（少なくともH42年までに+25%）させる必要があり、そのためには、今回の講演会で紹介されたホタテ貝柱製造工程の機械化や地まきホタテガイ資源調査の効率化や自動化などが重要な鍵になると思います。

▼網走水試では今後、工業試験場や大学、企業等と連携を図りながら、ホタテガイ漁業の生産性向上に向けた実用装置等の開発や普及などに取り組む考えでおりますので、生産現場の状況や課題、ご意見などをお知らせ頂ければ幸いです。

（ 網走水試　野俣 ）